

## 第54回東京都公民館研究大会

公民館運営審議会

委員 勝谷美紀子

日時 2018年2月3日(土)

会場 狛江市民ホール・中央公民館

テーマ 東京の公民館の未来

～持続可能な地域、次世代の学びに向けて～

基調講演 高尾戸美氏(日本サイエンスコミュニケーション協会)

第1課題別集会：公民館がまちを創る ～公民館が生み出す“地域”～

第2課題別集会：公民館の価値をみつめなおす

～住民とともに公民館を“評価”する実践“～

第3課題別集会：公民館としての魅力ある講座とは

第4課題別集会：地域と公民館を結びつける地域学習を考える

●委員7人が参加してきました。

第1課題別集会：公民館がまちを創る～公民館が生み出す地域～

助言者；佐藤一子氏(国分寺公運審委員長)

現在の公民館は施設内部の活動にとどまり、地域課題へのとりくみ、地域団体との連携に発展しない。市民が利用者にとどまり、公民館の運営や事業の創造の主体としての意識が薄れている。高齢化が進み、利用者が固定化しがち、子ども・若者の利用者が少ない。

防災のまちづくり、高齢者を中心とする相互扶助のまちづくり、学校や児童館との連携など、公民館が他団体と連携する必要性、地域の資源を活用して、魅力ある行動学習が必要である。

多世代交流事業を進め、サロン機能・居場所機能など、講座・サークルにとどまらない“つどい”機能の拡充が公民館のまちを創り公民館が生み出す地域として、公民館の必要性を感じました。また、国分寺市公民館の事例発表があり地域づくりの拠点としての活動が小平市での事業企画委員会設置により地域づくりの拠点としての公民館のあり方が、他市の公民館から事業企画委員会設置経過の説明を受けました。

この集会には32名の参加がありました。

## 国分寺市の「地域会議」に「公民館再評価」のヒントが

中 村 眞 一

第2部分科会で、国分寺市から「地域会議」が紹介されました。

小平市の地域活動は近隣市のそれと比較しても盛んな方だと思いますが、一方では活動者や団体同士の横のつながりが薄く、市全体の気運づくりの妨げになっているのではと思います。

そんな折、国分寺市では、中学校区毎5か所の公民館が軸となり校区内の地域活動家が地域の課題を話し合う、「地域会議」と称する交流機会があると知りました。

小平市でも一部地域で「地域連絡会議」が試みられたことがあると知人から聞きましたが、国分寺市の見べき点は、「公民館が中心となる」ことではないかと思います。

地域活動家の特徴は自己の行動に自信を持つ余り、他者との協働意識が希薄になりがちなため、折角の運動が一部で盛り上がることはあっても市全体の気運には至らないのではと思います。

その欠点を克服するには、各公民館から地域活動家への声掛けで意見交換する機会は「公民館」再評価の好機であり、極めて有意義だと思います。

## 第54回東京都公民館大会へ参加して

棟方貞夫

午前中は日本サイエンスコミュニケーション協会理事・合同会社マーブルワークショップ代表の高尾戸美氏による基調講演が行われた。博物館の職員から、博物館の展示物を製作する会社へ転職した経験のある講師。講座に参加してみたいと思わせる様々な工夫の実例は、公民館職員が講座を企画する際とても参考になる内容だと思った。

昼食時間を挟んで開催された4つの課題別集会では、第3課題別集会「公民館としての魅力ある講座とは」へ参加した。小金井市公民館主催“野菜づくり講座”、東大和市立蔵敷公民館主催“子育て世代対象講座”の担当職員から実践報告を聞いた後、6人前後のグループに分れ感想を出し合った。その後各グループから報告があり、野菜づくり講座について30年以上続ける意味はどこにあるか、子育て世代講座については保育室付講座も必要である、といった重要な指摘がなされた。

### 第3 課題別集会—公民館としての魅力ある講座とは—

篠原 忠英

要点をまとめますと、

- ・ 講座の位置づけやねらいを深めているか。
- ・ 気楽に参加しやすい講座テーマや丁寧な周知
- ・ 本音が語れ、人間関係が深まる講座運営の工夫
- ・ 講座終了後のフォローやその後の学習支援
- ・ 市民と共に創る講座づくり
- ・ 豊かな地域をつくる学びのネットワークなど

小平市の公民館では、職員が講座を作るのではなく、公民館事業企画委員会が講座の参画を、全館で行っています。

特に、印象に残った助言者の言葉としては、住民は土地の人で、事業企画委員や職員は風の人で、風は土に向かって、たくさんの花の種をまけるよう強く風を吹かすのが役割であり、土地の人（住民）は、自らの力で美しい花をたくさん咲かせるのが役割であるという言葉が印象に残りました。

小平市の公民館のさらなる発展を期待する次第です。

### 第5 4回東京都公民館研究大会に参加して

下釜 淳一郎

#### ・ 基調講演

基調講演は大きく構えた「公民館とは……」といった内容ではなく、「多摩六都科学館」勤務の方の事例報告的な講演であった。小平市民にとっては身近な多摩六都科学館のことであり、個人的には楽しい内容であった。

#### ・ 課題別集会

課題別集会で私が参加したのは「公民館としての魅力ある講座とは」という分科会であった。「魅力ある講座」を多く開催することは、公民館の活性化に影響することであるが、多種多様な利用者の多くに支持される「魅力」は定めがたく、講座企画担当者としては一番難しいテーマであると思われる。

東大和市と小金井市の公民館職員から事例報告が行われ、助言者の解説が行われた。多くの制約の中で苦勞して講座を企画する様子はいかがだが、それが「魅力ある講座」であったかは評価が分かれると思われる。また助言者の解説はやや冗長で、もっと簡潔にしてもらいたかった。その分事例報告及びその後のグループ討議に時間を割り振るべきではないだろうか。

## 第 54 回東京都公民館研究大会 報告書

櫻田 誠

私は、課題別集会では第 4 分科会「地域と公民館を結び付ける地域学習を考える」に参加いたしました。最初に、3 つの事例発表がありました、第 1 番目は、西東京市の田無公民館での取り組み「公民館の学びがまちをつくる」と題して、地域の課題として「子供の貧困に向きあう地域をつくる」をテーマに講座を開催、講座の講師は、西東京市内で活躍する人にしていただいた。例えば、養護施設の施設長、児童館運営の委託 NPO（西東京子どもアミーゴ）、無料学習支援団体（稲門寺子屋）、ニート引きこもり対策事業委託 NPO（文化学習協働ネットワーク）、西東京市生活福祉課主幹、しんぐるまぎーずふおらむ代表等をお願いした。講座終了後、サークル「西東京わいわいネット」を立ち上げ、「食事の提供」「学習」「市内の子ども関係団体との連携」を活動の柱にした。サークルのメンバーの地域が「子ども食堂」を作り、現在市内に 7 つの「子ども食堂」を展開されている、活動報告は、大変感動もし、これまでにされた方々の努力に敬意を払いたい。我が市でもそれへの動きは、聞いているがまだまだである。

2 番目は、福生市公民館と「熊川分水に親しむ会」の活動でした。分水については、小平市内においても小平用水等 50 キロの分水が残っております。この分水は、川がない地域では、人が住めないところを先人達が、努力して玉川上水から分水を引き、住めれるようになり、今日の小平になったように、三多摩地域は何れも同じであった、ということが認識することができました。自分の住んでいるところの歴史や成り立ちを知ることは、大事なことで公民館の活動としても事業に組み込んでいく必要性を感じました。

3 番目は、福生市の公民館活動「学校の総合的な学習の時間の活用」について報告がありました。子育てに関する 4 つの課題があり、其解決の為、小学生時代から公民館とのつながりもつ必要性を感じ、小学 6 年生の総合学習の時間に、「まちづくりプロジェクト」を立ち上げ、公民館に来て利用者との交流を図り、公民館の役割等理解を深めることができた。この事例も小平市内の公民館でも工夫を凝らして公民館を中心とした小学校との連携は大事な視点である。小学生は公民館との連携が出来れば、そのご両親にも理解の輪が広がっていくと考えられる。今回のテーマである「地域と公民館を結び付ける地域学習を考える」の答えが見出させる思いがした。

#### 第4 課題別集会「地域と公民館を結びつける学習を考える」

高橋 雅子

福生市、昭島市、西東京市の3市の事例発表がありました。特に西東京市の事例が印象に残りました。

「子どもの貧困に向きあう地域をつくる」全5回の公民館の主催講座が行なわれた。

西東京市内で、都営アパートに住む中学2年生男子が義父の暴力に耐えきれず、自殺するという事件が発生！その事件がきっかけで、地域課題である「子どもの貧困」を、ただ知識として学習するのではなく、地域の大人として自分たちに何ができるかを具体的に考え合う講座とした。

講座の中では、グループ討議の機会を多く持ち、参加者同士の連帯感が深まっていった。講座終了後、参加者たちが、サークル「西東京わいわいネット」を立ち上げた。

サークルの活動は、「食事の提供」と「学習」「市内の子ども関係の団体との連携」となっている。サークル活動をしながら、更に学習の必要性を重視し、見学会、講座での学習会が継続されている。

その後には、公民館職員のすばらしい関わりが、とても重要な役割を持っている。ただ、職員の力量、パワーに感動しました。

わが、小平でも絶対できそうな気がします。

